

AYA 世代の患者支援 実施報告

2026.2.20 阪大病院公開キャンサーボード

AYA 世代がん患者さんの SDM (Shared Decision Making)

Web 開催

患者と医療者が協働して治療やケアの意思決定を行うプロセスについて、医師の立場からは実際の診療の場でのやりとりを、経験者からは、治療中に感じたことや、価値観、未来への希望の見つけ方、今後の課題などについて、ご講演いただきました。

難しいテーマでしたが、実体験に基づいた内容で、「現場の葛藤を感じた」「患者さんのお話を診療以外で伺えるのは貴重な機会でした」「病気だけでなく生活背景も踏まえた関わり（治療による生活への影響）の重要性を改めて感じた」などの医療者からのフィードバックをたくさんいただきました。

大阪大学医学部附属病院 公開キャンサーボード
AYA世代がん患者さんのSDM (Shared Decision Making)

講演1 18:00~18:30
抗がん剤治療に臨む
コミュニケーションのあり方
佐藤 太郎 先生
(大阪大学医学部附属病院 がんゲノム遺伝学センター 教授)

講演2 18:30~19:30 質疑応答 19:30~20:00
治療の孤独を乗り越える対話
坂田 直樹 氏 (医師 がん相談支援センター 相談員)

AYA世代の自分らしい選択と
長期フォローアップ
奥野 七夢 氏 (急性骨髄性白血病経験者)

日時 2026年2月20日 (金)
18:00~20:00
場所 WEB開催 (Zoom Meeting)
対象 がん診療に携わる医療関係者
がん患者さん、経験者さん、ご家族
※切:2/18(水)

主催:大阪大学医学部附属病院 オンコロセンター

53名参加

アンケート結果より (回収率: 約 28%)

